

学校だより



令和2年 6月 30日
横浜市立二谷小学校
校長 石川 秀子

with

学校長 石川 秀子

三交替の分散登校から始まった6月も、ようやく全員がそろって午前授業ができるようになりました。そしていよいよ明日から給食開始となります。地域、保護者の皆様、安全な登下校へのご支援ありがとうございました。毎日かなりの高温となってきた中、マスクを着用して日常生活を過ごすことは初めての体験です。暑さが厳しい時には、周りの人との間隔が十分取れるように気を付けてマスクをはずさせたり、日差しをよける帽子の利用や、水分補給を心がけたりしながら熱中症予防対策にも取り組んでいきたいと思えます。

さて、「シトラスリボン プロジェクト」をご存じでしょうか。松山大学法学部の甲斐朋香准教授らが始めた活動で「地域」「家庭」「職場や学校」を象徴する三つの輪をかたどったシトラスカラーのリボンをつけ、思いやりの輪を広げて新型コロナウイルス感染者や医療従事者への差別をなくそうというプロジェクトです。愛媛県発でいま全国に広がりを見せているとのこと。感染拡大防止に向けてそれぞれが取り組んでいる毎日ですが、誰でも感染のリスクは0ではありません。ウイルスに感染してしまった人、回復した人、濃厚接触者も医療従事者も誰もが安心して受け止め合える社会を目指そうとする取り組みの一つがこの「シトラスリボン プロジェクト」なのです。

現在も「with コロナ」、新型コロナウイルス感染症とともにある生活が続いています。マスク越しの挨拶にも少しずつ慣れてきました。人と人との物理的な距離は空けざるを得ませんが、挨拶や会釈でお互いの気持ちを近づけたいものです。挨拶をしたり、うなずいたりしてコンタクトを取り合うようにしましょう。名前を呼び合ったり、「はい」と返事をしたりするだけでも、心の距離が縮まる気がします。

例年この時期は「二谷ハッピーバースデー集会」を行って、全校で創立記念日（7月4日）をお祝いしてきました。今年度は全校で集まっての集会はできませんが、創立115年を祝う気持ちは変わりません。

校長室には「70年 二谷のあゆみ」という70周年の際の記念誌があります。その中にある当時の齋藤淑代校長の言葉から、二谷小学校の歴史を振り返ってみたいと思えます。

『本校は明治38年3月31日に横浜市神奈川区字平尾前2572番地に横浜市第6高等小学校として創立されました。全市に6か所設立した高等科児童対象の学校の一つで、神奈川近在の高等科の中心校でしたが、わずか3年にして校名変更して横浜市尋常高等二谷小学校となり、以来、教育の変遷や社会の変転に伴って幾度か校名改称を重ねて昭和24年7月に現在の横浜市立二谷小学校になりました。創設期は児童数630名の本校ですが、明治・大正・昭和三代にわたる70年の長い年月の中では、地域の発展に伴い、ある時は児童数1761名をようし、校舎の増・改築や学区の改変を行う隆盛期もありました。また、大震災にあい、戦災で全校舎を焼失し、疎開、統合などで幾多の辛酸苦難に遭遇しながら、それを乗り越えてまいりました。（中略）時代は移り、時は流れてこの学び舎の児童教職員は次々変わりましたが、70年このかた一貫して変わらないものは、郷土を愛し学校・児童を愛する地域の恩情と教育への深い理解であると思えます。（後略）』

「with コロナ」の現実を生きる今であると同時に「with 歴史」「with 地域・社会」「with こども」を思う7月です。今月もよろしくお願ひします。